

令和6年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■自主研究3	公益目的事業 11
主査名	谷口綾子 筑波大学教授	
研究テーマ	自動運転システムの社会的受容：「標準的なアンケート指標」と「自動運転バスエクステリア要件」の検討	
<p>研究の経過（4月～9月）：</p> <p>2024年5月 米国テキサス州ヒューストン、アリゾナ州立大学、フェニックス市等における自動運転タクシーWaymo、MayMobilityへのヒアリング調査と試乗を行うとともに、自動運転トラック Aurora の視察を行った。</p> <p>2024年5月-9月にかけて、自動運転システムの社会的受容を計測する標準的なアンケート指標試案を作成し、北海道当別町、茨城県日立市、青森県奥入瀬溪流、新潟県佐渡市、神奈川県川崎市、北海道上士幌町などの自動運転バス実証実験において、地域の実情を踏まえて調査票のカスタマイズを行った。2024年7月-10月、当別町、日立市、奥入瀬溪流にてアンケート調査を実施済みであり、現在データ分析を行っている。11月以降に川崎市、佐渡市、上士幌での調査実施を検討中である。</p> <p>2024年8月以降、自動運転バスのエクステリアへの態度や配慮行動を把握すべく、アンケートとインタビュー調査項目、対象者を検討中である。また、自動運転バスのエクステリアの優良事例を広く周知するため、2025年度はじめにコンペの実施を検討中である。2024年度はコンペ準備を行い、車両の形状部門とラッピング部門の2部門で構成し、自動車デザイナーや環境デザインの専門家に審査員を依頼予定である。またコンペに先立ち、10月に奥入瀬溪流を走行予定のMiCaのラッピングデザインを検討した。</p> <p>2024年8月10日(土)筑波大学東京キャンパスにて研究会を開催し、情報共有と議論を行った。2024年10月26日(土)、27日(日) 青森県十和田市にて研究会を開催し、自動運転バスMiCa、GSM8、iinoの3種の自動運転バスに試乗する。</p> <p>下期へ向けて（課題等）：</p> <p>自動運転システムの社会的受容を把握するにあたり、現時点では、実験参加者(試乗した人)と周辺地域住民へのアンケート調査で定量的に分析することを予定しているが、アンケート調査のみではサンプルバイアスや実際の運転時の配慮行動を把握しづらいなど、限界があると考えられる。よって例えば自動運転バスが常時取得している映像を分析することにより、後続車両の渋滞状況や、アグレッシブな追い越しがどの程度起きているかなどを加味した総合的な評価指標が必要かもしれない。しかし、取得できる映像は膨大な量となり、目視で今後すべての実証実験車両を分析することは困難である。将来的には、AI画像解析による自動運転車両の周囲の車両挙動を把握するシステム構築を検討したい。もし実証実験の映像を何カ所かでも入手できるなら、まずは目視による分析を下期に試みたい。</p>		